



国有林野
事業の取組

九州森林管理局

九州・沖縄における 生物多様性保全に向けた取組



ゴイシツバメシジミ観察会の様子▲



希少野生動植物種保護管理事業で設置した水場に現れたツシマヤマネコ▲
西表島のマングローブ林▼



今年には国連で定める「国際生物多様性年」です。10月には名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されます。

「生物多様性」とは、いろいろな生物が、生態系、種、遺伝子といったそれぞれのレベルで豊かに存在することを言い、私たちは、これら様々な生物とのつながりの中から、酸素、水、食料、住宅資材、精神的な充足感等様々な恵みを得ています。

ここでは、生物多様性の保全に向けた九州・沖縄地域における国有林の取組をご紹介します。

多様性に富んだ 九州の森林

九州・沖縄は、南北約1200キロにわたる中・低緯度の温暖な地域に位置して

います。黒潮と対馬海流の二つの暖流や季節風がもたらす温暖・湿潤な気候帯に属する一方で、標高1000メートルを超える急峻な山岳地帯が連なっており、西表島などに

見られる亜熱帯の森林、九州各地に見られるシイ・カシなどからなる暖温帯の照葉樹林、九州中央山地などに見られるブナ・ナラ等からなる冷温帯の落葉広葉樹林、世界自然遺産地域の指定地である屋久島の樹齢3千年を超えるヤクスギやモミ、ツガの針葉樹の天然林といった多様な森林が分布しています。また、これらの森林の中には、希少種を含む様々な動植物が生息・生育しています。

保護林の設定による 生物多様性の保全

国有林では、原生的な天然林、貴重な動植物が生息・生育している森林を「保護林」として設定し、保護管理を行っており、九州・沖縄には、94カ所、合計約5万4千haが設定されています。

1万5千haに及ぶ「屋久島森林生態系保護地域」には、亜熱帯から亜高山帯までの植生がみられ、樹齢数千年以上の樹木が生育するヤクスギ林があります。ここでは、縄文スギの樹勢回復作業や、植生の踏み荒らしを防止する歩道整備等を行っています。

また、「西表島森林生態系保護地域」には、日本最大のマングローブ林や、スタジイ、タブノキ、オキナワウラジロガシ等の原生的な亜熱帯林等があります。ここには、イリオモテヤマネコをはじめ多くの固有種が生息・生育してお



綾の照葉樹林に生息するクマタカ

り、それらの貴重な動植物を保護・保全するために、定期的な巡視等を行っています。

更に、全ての保護林の状況を客観的に把握し、それに応じた管理を行うため、五年おきにモニタリング調査を実施しています。

このような個々の保護林を繋いだ「緑の回廊」の設定にも取り組んでいます。これは野生動物等の移動経路を確保するためのものです。

宮崎県綾町に広がる我が国最大規模の照葉樹林帯において、三つの保護林を結んだ「綾川上流緑の回廊」を設置し、クマタカやニホンカモシカ等が生息・移動しやすい環境づく

りに向け、関係機関や市民の皆さんと連携しながら人工林を照葉樹林に還元する取組を進めています。

希少動物の保護管理

保護林の設定による貴重な動物の保護のほか、種の保存法で「国内希少野生動物」に指定されているツシマヤマネコやアマミノクロウサギなどの哺乳類、カンムリワシ、ヤンバルクイナなどの鳥類、ヤンバルテナゴコガネやゴイシツバメシジミなどの昆虫類など計11種類の動物について、生息地の保護や生息・採餌環境の整備等を実施しています。

ゴイシツバメシジミは、熊本県南部の特定の地域にのみ生息し、生息数わずか数十頭程度と言われる蝶の仲間です。この蝶の幼虫は、同じく絶滅が危惧されているイワタバコ科のシシランの蕾や花を唯一の餌としており、シシランの増殖がこの蝶の保全のカギと言えます。そのため、九州局ではシシランを増殖させ、自然に戻す取組を続けています。

また、環境教育の一環とし

て、毎年地元の小中学生を招いてゴイシツバメシジミの観察会を開催しています。今年の7月27日に行った観察会では、運良くゴイシツバメシジミの舞う姿が見られ、子どもたちから大きな歓声があがりました。

生物多様性への脅威 シカ対策

近年、全国的にシカが急増しており、九州地方においても、急増したシカによって貴重な植物を含む下層植生が食い尽くされる被害が発生しています。こうしたシカの食害は、植物の生態系を破壊するだけではなく、植物を餌や住処とする昆虫や、それを餌とする鳥や動物の生命をも脅かしています。

九州局では、シカの食害を防ぐために、防護柵の設置等を行うてきました。今後はシカの頭数管理にも本格的に取り組む予定です。その一環として、今年度は被害状況調査のほか、GPSテレメトリーによって行動パターンを把握し、シカの効果的・効率的な捕獲方法等を検討した上



シカが嫌う植物(ヤマシャクヤク)だけになり多様性が失われた林床

で、地元自治体や猟友会と連携しながら、捕獲を行う予定です。

生物多様性の保全においては、状況の変化に対応しながら、持続的に取組を続けていくことが重要です。

九州局では、今後も、九州・沖縄の多様な森林とそこに生息・生育する生物を保全していくため、地域や関係機関とも連携を図りながら生物多様性の保全に向けた取組を積極的に展開していきます。